

# 学園都市八王子

高橋 敏夫 ● 拓殖大学副学長



## 東京都八王子市

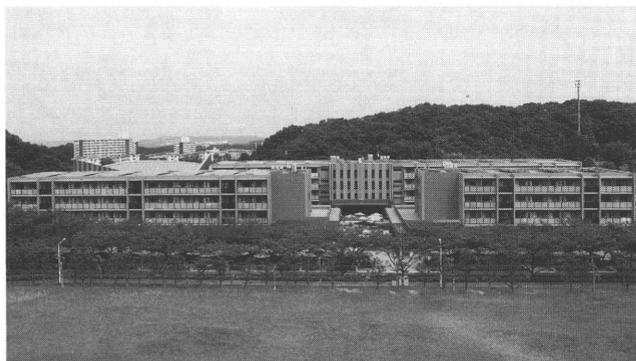
八王子市が四季折々に全国で話題になるのは、高尾山の春の桜、秋の紅葉、そして、東京一の夏の最高気温と冬の積雪量である。それらの自然現象は、八王子市が東京都の西南部に位置し、都心から約四十キロほど離れ、高尾山と丘陵を背に東に開けた半盆地形状の扇状地になっているからである。八王子市は一九一七年に市制を施行し、以来近隣町村と合併などの編成を繰り返して、現在面積一八六・三一平方キロメートル、人口五六万四七〇二人を擁している。かつてはこの東の丘陵が桑の育成に適していたため、養蚕業そして絹織物産業が盛んであった。また、明治時代には生糸を長野や群馬方面から八王子に集積し「絹の道」を経て横浜へ運ばれるなど、織物業の近代化を支えてきた。そのため八王子は「桑の都」あるいは「桑都」と呼ばれた由緒ある街である。

全国各市町村の多くで、夕方になると防災無線などで流される「夕焼小焼」のメロディは、地域の子どもたちに帰宅を促す合図として親しまれている。八王子市でもこのメロディが使われているが、実はこの選曲には他の市町村とはいささか趣が異なる。「夕焼小焼」

の作詞は中村雨紅で、雨紅の生誕地が八王子の恩方であり、その地をイメージした詞と書かれているからである。二〇〇五年十二月二十五日からはJR八王子駅で、各番線の発車メロディとして「夕焼小焼」が採用されている。

恩方は、古くは東京府南多摩郡恩方村で、一九五五年に現在の東京都八王子市上恩方町として八王子市に編入された。恩方は、八王子市の平均標高が百メートル前後であるのに対し八百六十メートルを超え、山里の風景が今も健在である。そこに「夕やけ小やけふれあいの里」と呼ばれるレクリエーションセンターが開設され、のどかな時間を満喫できる。ちなみに恩方に開設されている「夕やけ小やけふれあいの里」には、地元出身の写真家前田真三の作品や資料が展示されているが、前田は拓殖大学の卒業生である。

八王子市のシンボルの木は、銀杏である。大正天皇の御陵造営を記念して、一九二九年に甲州街道追分交差点付近から高尾駅前にかけて七百六十三本植えられ、街のシンボルとなった。樹齢百年余の古木は、春は浅緑色のみずみずしさ、秋は黄金色の輝きで街を彩る。



一九七九年からは、この銀杏の葉が色づくころ、市民手づくりのお祭り「いちよう祭り」が開催されるようになり、多くの市民の参加を得て活気づいている。

この街が新しく脚光を浴びたのは、都心部の住宅難を解消するために、そのベッドタウンとして多くの団塊の世代を迎え入れたことと、一九六〇年代後半から都心部における大学の拡大が抑制され、さらに一九七五年に成立した私立大学振興助成法と工場等規制法の制定などにより大学の郊外移転が加速し、その移転先の中核となったことである。

現在八王子市には、その周辺部も含めると二十三の大学等（大学・短期大学・高等専門学校）が点在し、外国人留学生約三千百人を含む十万人の学生が学んでいる。学園都市と呼ばれる由縁である。拓殖大学（文京区）

は一九七七年に学部新設を機に八王子キャンパスを開設した。八王子は市民のスポーツが盛んである。地域社会に根ざした開かれた大学の理念のもとに、各大学がスポーツ施設を開放していることもそれに一役買っている。学園都市の面目躍如たるところである。拓殖大学も八王子キャンパス開設と時を同じくして、一般社団法人「八王子サッカー協会」、同「八王子バレーボール連盟」との共催により、「拓殖大学杯サッカー大会」「拓殖大学杯バレーボール大会」を毎年開催し、今年で三十五年の歴史を重ねている。

この八王子キャンパスに二〇一二年四月、留学生を含む四百名の学生寮「カレッジハウス扶桑」が開設された。この寮の誕生は、施設の建設・運営は外部組織に委託し、三十年後には大学に無償で譲渡するというPFI（Private Finance Initiative）事業が採用された「産学協同」の新たな試みの結果である。寮はバストイレ、家具付きのワンルームスタイルで、共有部には食堂棟、大浴場、フィットネスジム、コンビニエンスストア、自転車ショップまで用意され、古い寮のイメージを一新した憩いの場として在寮生に好評を得ている。

この学園都市八王子にも課題は少なくない。特に少子高齢化はベッドタウンの役割を完了させつつあり、また大学の都心回帰への流れを加速させている。高尾山に代表されるように八王子市は自然豊かな街である。今後、その豊かさや近代的な大学とが調和する街づくりを、地域社会のすべての人々と並びに組織と一緒に考えていかなければならないであろう。

# 「こころとからだ」を学び、

## かかわり、「共生」へ

日比野 英子 ● 京都橋大学健康科学部長

### 一 はじめに

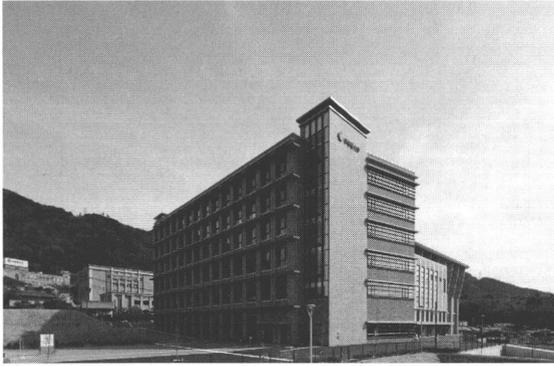
本学は、一九六七年に橋女子大学として開学され、その後、二〇〇五年に共学化されて京都橋大学と改称し、現在は五学部十学科からなる総合大学に成長し、四季の変化が美しい音羽山のおもとのキャンパスに三千三百人余の学生が学んでいる。設立時には文学部だけの単科大学であったが、二〇〇五年より教学理念に「自立・共生・臨床の知」を掲げ、次々に看護学科、現代マネジメント学科救急救命コース、児童教育学科、という医療・教育・福祉の分野にまたがる援助職種の職業人を養成する教育を展開し、二〇一二年四月に理学療法学科と心理学科からなる健康科学部を開設した。筆者は、健康科学部開設と同時に学部長として着任したが、「自立・共生・臨床の知」という理念には大いに共鳴するところがあった。飛躍的な科学文明の発展を遂げた二十一世紀の社会は、その恩恵を受ける人々に「共生」の理念なくして成り立たない時代を迎えていると言えよう。環境問題に代表されるように、個人の大量消費や企業の利益追求に終始する姿勢が再考を迫

られており、他者の利益や社会全体の仕組みや営みに配慮した経済・文化活動が求められている。健康科学部では、理学療法学科も心理学科も、「対人援助」に関わる職業人養成の教育を展開し、その新たな視点を開発する研究を行い、他者に利益をもたらす関係性を築く能力を育成することを目指している。

青年期の「自立」については、就職難やワーキングプアというような現象が日々取り上げられ、経済的自立が難しい時代であるが、「個」としての「自立」という視点から見ても、当代の青年期は相当複雑な状況に置かれている。思春期前後から、eメールやSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を駆使し、情報入手に多大なエネルギーを投入して成長してきた彼らは、自らの発信への応答を求めることについての性急さや、他者への過剰な敏感さと侵襲性、その延長線上にある対人的な臆病さと無神経、傲慢といった特徴を人間関係の中に映し出している。

このような世代の特徴に配慮された仕掛けをもつ大学環境は、学生が他者との開かれた交わりの中で、本当の自己を見つめ、自他の理解を深める中で「自立・共生」を体験的に学





ぶ器となり、自己を統合的に組織化する能力を高めようと考える。健康科学部の課程にどのような仕掛けを設けて、このような今後の人格の成長の基盤となる力を育てていくのか、開設にあたって教員間でアイデアを述べ合うことも希望に満ちた愉悅の作業であった。

理学療法も心理学も、ともに人の生の営みから学び、その研究成果を社会へ還元しようとする分野であり、健康科学部は広く社会へ開かれた教育研究を展開することを旨としている。教員は、学術的知識・理論の教授のみならず、臨床の場・現場における実践活動から得た「臨床の知」をもって教育にあたり、

学生にも体験的な学びを通して、自己の成長と社会生活に役立つ「臨床の知」を修得させることを狙いとしている。

## 二 「ここからだ」の健康科学部

健康科学部は、「ここからだ」の健康と「臨床」を考究すること

をテーマとしている。一般には、理学療法学は体を対象として、心理学は心を対象としてとらえられがちだが、理学療法学科も心理学も、人間を「ここからだ」を併せもつ存在としてとらえるホリスティックな視点、心身の全体性を重視する立場に立脚している。

### (一) 理学療法学科における心理学を学ぶ意義

理学療法法の直接的な目的は運動機能の回復にあるが、その本来の目的は、日常生活動作(ADL)の改善を図り、最終的には生活の質(QOL)の向上を目指すというものである。リハビリテーションの定義においても、それは機能回復の訓練を指すのではなく、障害のある人がふたたび人間らしく生きることに「ここからだ」の両面からアプローチすること、すなわち「全人的復権」を目指している。

従来の理学療法士の養成課程では、体の構造や機能、及びそれらの異常や異常によって引き起こされる身体動作とその治療法については教育されるものの、心についての教育は希薄であったと言わざるを得ない。

本学部の理学療法学科では、対象となる人々の人生観やライフスタイル、健康に対する意識を理解しつつ、回復へのモチベーションを高めてADLからQOLまでの向上を図る理学療法士を養成するために、心理学系の科目も多く取り入れたカリキュラムが設計されている。また、理学療法士はその職業的使命感から重圧を感じることも多く、自らの心身の健康管理も重要な課題であるが、これについても心理学的なス

トレスマネジメントの知識が役立つと考えられる。

## (二)「心理学における「身体」及び「身体性」

心理学は多岐にわたる領域から成り立ち、ヒトの行動、感覚・知覚、記憶や学習、能力やパーソナリティ、感情や動機、意識と無意識などを対象として「こころ」へのアプローチを試みるが、身体あるいは身体性については大前提であり、実際に身体的な活動や反応の測定や介入技法もしばしば用いられる。行動主義心理学は、明白な事実としての行動を研究対象とすることによって科学性の確保を図ったが、現代の生理心理学・行動神経科学などは、身体内の生理的反応をも対象として、分子レベルから細胞、組織、器官、身体全体の行動までを含めて取り扱うことによって「こころ」の働きを追究している。人と人の間に生じる現象を研究対象としている社会心理学においては、身体及びその装飾について取り上げ、これらには人間の心理的事実の表現形としての意味があり、それを媒体として情報伝達が行われることから、「社会的動物」としての人間にとつて極めて重要な機能を果たしていると考えられている。

臨床心理学の分野においても、身体とその活動である行動はさまざまな個人の内的状態についての情報やエビデンスをもたらし、「こころ」の問題は主観、行動、身体のいずれかに現れると考えられている。また、「こころ」の問題への介入技法としても、自律訓練法、動作法、バイオエナジェティクスなどの身体から「こころ」へ迫る方法も多々存在する。

このように心理学にとつても、身体は「こころ」の発現の場であり、「こころ」へと迫る一つの重要な経路であると考えられ、「こころとからだ」は不可分と考えられている。

## 三 健康科学部の教育目標・課程とその特色

健康科学部では、理学療法士や心理臨床の専門職業人の養成に限らず、一般企業や公務員などの職業人としても有能な、共生社会の構築に貢献できる人材を輩出したいと考えている。両学科とも専門的な知識・技術の修得は当然であるが、それを社会生活で生かすための多様な他者理解の能力、コミュニケーションやチームワークなどの人間関係に関する豊かな能力を備えた社会人を養成する課程を設計した。

### (一) 学部共通の「医療と心理」領域

健康科学部のカリキュラムにおいては、理学療法学科と心理学科とも心身の全体性重視という共通の視点から、学部共通の「医療と心理」という領域を設け、「こころとからだの臨床学」「リハビリテーション文化論」「死生学」など、両学科の教員がそれぞれの知見・臨床知を持ち寄り、新たな視点を開発する科目を設定した。両学科の学生が共に学び、交流する場でもある。

### (二) 理学療法学科の教育目標・カリキュラムとその特色

理学療法学科は、高齢者社会の進展や保健・医療・福祉の多様化・高度化に対応して、幅広い教養と高度なコミュニケーション能力、理学療法や医学に関する知識と技術に裏づ

けられた主体的な判断力と応用力、自己教育力の素養をもつ人材を育成することを目標としている。

理学療法士養成が第一義的目的であり、日々進歩する医療技術や多様な保健・医療・福祉のニーズ、チーム医療などの現代医療の課題を的確にとらえ、理学療法士に対するニーズの拡大と資質の高度化に対応できる人材を養成する。そのために、基礎医学や臨床医学などの専門基礎分野では、講義を中心とした知識の修得を目指し、理学療法の実践的な技術をも身につける治療学をはじめとする専門分野においては、技術の修得を目指して、演習と実習を中心とした科目を設定している。後者に関しては、近隣の病院を中心にして一年次から四年次にかけて臨床実習を段階的に行う。現場での実習を通して「理学療法士になる」という自覚と責任感を醸成しながら実践力を身につけさせる。四年次前期の「総合臨床実習」では、それまでに学んだ知識と技術を生かし、さまざまな現場に対応できる柔軟な思考力と応用力を身につけることを狙っている。

理学療法学科のカリキュラムの特色として、以下の五項目が挙げられる。

- (1) 幅広い基礎分野の科目による豊かな教養の修得  
学士課程としてふさわしい教養を身につけるため、総合大学のメリットを生かし、幅広い基礎分野の科目を開講し、豊かな教養をもった理学療法士を育てる。
- (2) 心理学科と連携し、心理的側面への科学的アプローチ

学部共通の「医療と心理」領域を開講し、科学的な見地から心理的側面にもアプローチできる理学療法士を育成する。

- (3) 地域に根ざした理学療法士の育成

地域のコミュニティ活動や保健・医療・福祉施設での活動に学生を参加させ、さまざまな人や現場の理学療法士と交流することにより、地域に貢献できる理学療法士を育成する。

- (4) 他職種との連携ができる理学療法士の育成

看護学部や救急救命コースという医療系を有する大学としてのメリットを生かし、学部や学科を超えた研究活動へ学生にも参加させ、他の医療職種とのチームワークが図れる理学療法士を育成する。

- (5) 三つのラーニングコースに沿って専門的に学ぶ

次の①から③のラーニングコースと呼ばれる履修モデルに沿って、コース科目を選択履修するとともに卒業研究を行うことで、より高度な専門的知識と技術を身につけ、将来の自身の専門性や職場選択について、学生自らが具体的に考える契機となるよう指導を行う。

- ①ヘルスプロモーションコース

地域で生活する高齢者の健康づくりについて、生活習慣病予防、転倒予防、慢性呼吸器疾患の予防などを専門的に学ぶ。

- ②スポーツ・運動器障害コース

スポーツ活動中のけがや骨・関節疾患に対するリハビリテーションについて専門的に学ぶ。

- ③脳・脊髄障害コース

脳性小児麻痺、成人中枢麻痺、脊髄損傷など、脳・脊髄疾患に対するリハビリテーションについて専門的に学ぶ。

### (三) 心理学科の教育目標・カリキュラムとその特色

心理学科では、豊かなコミュニケーション能力を身につけた社会人・職業人となるための基礎トレーニングを行い、その後、現代社会に見られるさまざまな「こころ」の問題にアプローチし援助する専門職や、一般企業で働く人々の健康管理や組織管理、消費者側の視点をもった販売戦略を担当する企業人など、人々の健康と幸福を実現する共生社会の構築に資する人材の育成を目標としている。

前述の基礎トレーニングについては、自己理解と自己表現、他者理解、コミュニケーション能力を育成するため、一年次と二年次に十二、三名の少人数制の科目「自己表現研究」と「グループワーク」を配置して、臨床心理学系の教員が担当している。自己の思いや意見を発言することに対して、教員やクラスメートが温かく向き合ってくれる体験を通して、学生たちは自己への洞察を深めるとともに、積極的に発信する姿勢と相互理解を促す能力を獲得していくと考えている。これは三年次以降の卒業研究の演習における討論の基礎にもなり、また将来の職場や地域社会における他者への配慮のまなざしを伴う自発的・積極的な姿勢・活動を促すと考えている。

心理学科でも、幅広い教養を身につける「総合的教養教育」を展開するとともに、専門教育では、基礎から応用までの種々の心理学分野をバランスよく総合的に学べるよう科目

を配置している。まず、共通領域で心理学の基礎的な理論と研究法を修得して「学び方を学ぶ」トレーニングを行うが、実はこの領域の科目も充実しており、初歩から最新の基礎心理学まで学ぶことができる。その後、「臨床心理学領域」「社会・産業心理学領域」「発達・教育心理学領域」という、より応用的な分野に進み、卒業研究へと導いてゆく。応用分野の三領域の学修の目標と特長は、次のとおりである。

#### ① 臨床心理学領域

子どもから青年・成人・高齢者までの「こころ」の健康とその問題について、講義のみでなく演習や体験学習も取り入れて、臨床心理学の知見の理解とその活用力が身につくよう指導する。将来、臨床心理士を目指す者を含め、医療、教育、福祉などの分野で他者援助ができる人材を養成する。

#### ② 社会・産業心理学領域

まず社会心理学の基礎を学修し、次に職場の人事・組織論や消費者行動・マーケティングなどのビジネスに直結した産業心理学を詳しく学ぶ。また、職場のメンタルヘルスについても専門的素養を育み、職場の心身の健康と生産性を高める戦力となる人材を育成する。

#### ③ 発達・教育心理学領域

児童・生徒の心理の理解を深め、思春期・青年期の心の問題への対処としてのストレスマネジメントやソーシャルスキル・トレーニングなどの知識や技法の修得を通して、学校や教

育相談機関、種々の福祉施設等で活躍できる人材を養成する。これらの応用分野での学びの集大成として、三年次後半から四年次にかけて、卒業研究を行う。

大学での学びが卒業後の職業・社会生活に十分生かされるよう、特に臨床心理学領域と産業心理学領域を充実させた課程となっている。

#### 四 心理学科通信教育課程「たちばなエクール」

心理学科に、通信教育課程「たちばなエクール」を併設した。通学部と共通のカリキュラムであり、忙しい有職者も自分の生活に合わせてeラーニングで学ぶことができる。教職員による学びのサポートも用意されている。

臨床心理学領域と産業心理学領域が充実しているカリキュラムということで、医療・福祉・教育等の現職者の学生が多く、自身の職に対する誠実な姿勢と対象者への熱心な支援の気持ち伝わってくる。この方々のニーズに十分応える教育内容にせねばならない。また、五十代以降の方々の生涯学習としてのニーズもある。後半期の人生を豊かにできる学びでありたいと、こちらが励まされる思いである。

システムや教授法など課題は多々あるが、新しい成人の学びのスタイルを創造する可能性という手応えを感じている。

#### 五 初年次を顧みて、健康科学部の未来を思う

健康科学部がその初年次を終えようとしている今、学生た

ちの活動を取り上げて、振り返りとして。

理学療法学科では、理学療法学生学会を立ち上げ、国家試験対策研究会、動作分析研究会、物理療法研究会、臨床評価研究会という四つの研究会を開いて、自律的な学修の機会をつくりだし、運営している。正課外であるので日没後の活動だが、煌々と照明がともっている教室がにぎやかで頼もしい。心理学科では、一年次の必修科目「自己表現研究」でのグループワークを終えて、学生たちの自己表現と他者理解が育ち、意見の違いや感情的な衝突も含めて、語り合いによって人間関係が深まってきているように見受けられる。心理学の基礎理論や研究法に対しても、初々しい興味関心が息づいている教室はなかなか居心地がよいが、ちよつと中だるみの印象の科目も出てきて、工夫が必要である。

夏期休暇中には、両学科の有志の学生が心理学科の教員と共に、福島県の子どもたちを招いて、キャンパスで六日間の保養キャンプを実施した。キャンパスや川や湖や京都の街で思い切り身体を動かして遊び、交流した。福島の親御さんたちからは温かな感謝の言葉をいただいた。学生たちはこのかけがえのない「かわわり」の体験を通して、「共生」を学ぶことができたと考えている。

卒業後は、医療や福祉や教育の専門職業人として、企業人や公務員、あるいは家庭や地域社会において、彼らが本学部での学びを活用し、共生社会の構築に貢献してくれることを願ってやまない。

# 近代歯科医学教育を拓く

## 一 はじめに

東京歯科大学の歴史は、日本の近代化の過程でつくりあげられてきた。明治になって封建鎖国制度は一変し、さらに太平洋戦争の敗戦によって教育制度は根底から変更された。私立の高等教育行政は、一九〇三(明治三十六)年の専門学校令、一九一八(大正七)年の大学令、終戦直後の学制改革、そして一九九一(平成三三年)の大学設置基準大綱化がそのエポックと思われる。本学は創立以来百二十三年となり、わが国最古の歯科医師養成機関であるが、これまでの教育・医療制度の変遷は明日と切り離せない。そこで本稿では、日本の近代化における歯科医師養成と歯科医療といった制度を縦軸に、わが校の足跡を横軸にして、大学令までと歯学部現在の課題を記したい。

## 二 明治以降の歯科医師養成制度の 歴史の変遷

現在の歯科医師は、歯学部卒業と歯科医師国家試験合格との絶対的な二条件を満たして免許が与えられる。

明治前半にはどちらかの条件で歯科医師になれたし、さらに江戸時代には、医師養成あるいは医師資格は各藩によって異なっていた。さらに当時、歯科医師という職業はなかった。明治になって近代的な歯科医師が導入されると歯科医師が誕生したが、その国家的な歯科医師養成は多様な変遷を経て現行制度に至った。

東京歯科大学の前身である高山歯科医学院は、一八九〇(明治二十三)年開校した。その前後に歯科医学院は数校設立されたが、いずれも短期間で廃校に追い込まれている。歯科医師養成には官立歯科医学院の設立が必要だと考えていた高山紀齋、血脇守之助らは、一八九七(明治三十)年に三十五名による請願書を衆議院と貴族院の両院に提出したが、歯科医師の養成に政府が目を向けたのは昭和に入ってからという遅さであった。官立ができたのは一九二八(昭和三年)、東京高等歯科医学院(東京医科歯科大学の前身)であり、それが戦後の新制度になるまで唯一の官立であった。私立学校が高等教育機関に組み入れられるのは、一九〇三(明治三十六)年の専門学校令公布によってである。高山歯科医学院から名称を変えた東京歯科医学

院は、東京歯科医学専門学校に昇格した。私立専門学校が名実共に大学になり得たのは一九一八（大正七）年に公布された大学令によった。しかし、歯科医学専門学校は大学昇格の対象とならなかった。初めての歯科大学誕生は、一九四六（昭和二十二年）年の旧制東京歯科大学まで待たなければならなかった。

### 三 近代歯科医療のあけぼの

わが国の近代歯科医療は、幕末、横浜の外国人居留地で開業した米国人歯科医によつて紹介された。歯科は米国が先行し、ドイツは後発であったこともあり、明治政府はあえてドイツ歯科医学を導入することはなく放任した。

徳川末期、歯科医療を担当していたのは口中医であり、また駒回しや香具師で多くが浪人であった。口中医は漢方・蘭学を修めた人々で藩医としての立場であったが治療内容は限られていたし、また患者も限られた身分の者であった。町では痛ければ抜くという荒唐治で、多くの町人はそれに頼っていた。歯抜き、あるいは入歯師などと呼ばれ賤業であった。

一八七四（明治七）年に政府は、医術開業免許制度である「医制」を公布した（東京・大阪・京都の三府のみ）が、全国で試験が行われるようになったのは一八七八（明治十一）年であった。内科、外科、内外科、眼科、産科、口中科などを目指す者が試験を受けて医師の免許が授与される制度である。

歯科医師の第一号は小幡英之助という人物で、歯科医師誕

生の背景は多少複雑である。小幡は中津藩の出で、慶應義塾卒業後から初期には佐野諒元に、その後近藤良薫の門下生として横浜で外科医になるべく修業をしていた。ところが医師である叔父が、ある出来事から英之助の手先がめっぽう器用なことに気づいて、横浜居留地で開業していた米国人歯科医師（医師でもあった）St. G・エリオットのもとで修業をするよう強く勧めた。別の叔父の小幡篤次郎は反対した。賤業の印象が濃く「士人のすべき職業ではない」からである。英之助に歯科修得を勧めた叔父は、エリオットの治療を受けたこと

があり、米国歯科医療の先進性に驚嘆した経験をもっていた。食べ物の消化において嘔むという口腔機能は重要で、それには歯がきちんと存在していることが必要である。虫歯や歯周病になっても歯を保存する治療、そしてなくなった歯の代用品としての義歯装着は、臓器機能の維持、回復という当時の医学では存在しない概念であった。米国歯科医療ではそのための治療がさまざまな機械器具材料を用いて実施されていた。それは、わが国における口中医の想像を超えた医療であった。

小幡英之助は、「医政」による最初の試験（一八七五「明治八」年）を受験するにあたって、従来の「口中医」でなく新しい「歯科」という名称を主張して、結局医政当局者と試験委員会（東京医学校）の同意を得るに至った。このため小幡一人のために試験委員も新たに定められた。「歯科」の名称は米国の Dentistry（dentは歯の意味）を邦訳した。その後一八七九（明治十二）年に医師試験規則が制定され、これまで

の「口中科」は「歯科」に変更された。そして、一八八四（明治十七）年に歯科医術開業試験が医術開業試験から独立して行われた。ここで歯科医籍第一号が誕生した（青山千代次）。ちなみに小幡は医籍第四号である。

#### 四 高山歯科医学院の創設

現存するわが国最初の歯科医師養成機関である高山歯科医学院は一八九〇（明治二十三年、芝区伊皿子（現在の港区高輪））に開学した。創立者の高山紀齋は戊辰戦争に出兵した岡山藩武士である。藩が消滅することから一八六九（明治二年、十九歳で上京し、慶應義塾に学んだ。一八七二（明治五年）年、サンフランシスコに渡った。高山は幕末に藩から米国視察派遣に選考されており、維新になり藩派遣はかなわなくなったが上京後カローザスに英語を学んでいたことなどは、渡米の決意が早期からあったことを裏づける（ちなみに一八八〇年の記録では在米日本人は百四十八名、うちカリフォルニア州に八十六名とわずかであった）。

彼の渡米目的は別にあつたが、歯痛で受診した同地の Dr. Van Denburgh に師事し、米国の歯科医術開業資格を取得して（米国開業医術資格を取得した日本人は高山が最初である）、一八七八（明治十一年）年に帰国した。同年銀座三丁目を開業、このとき高山は内外科医の身分を無試験で下付されている。高山は、開業とともに歯科衛生に関する啓蒙書を出版したりした。高山の歯科治療は受け入れられ盛業であつた。彼は一

八八四（明治十七）年の最初の歯科医術開業試験では試験委員を命じられ、一九〇〇（明治三十三年）までその任にあつた。一八八五（明治十八）年には、歯科界を代表して大日本私立衛生医学科審事委員に指名されているが、このことは政府が彼の實力を評価したというだけでなく、職業としての歯科の社会的認知がされだしたこともあつた。

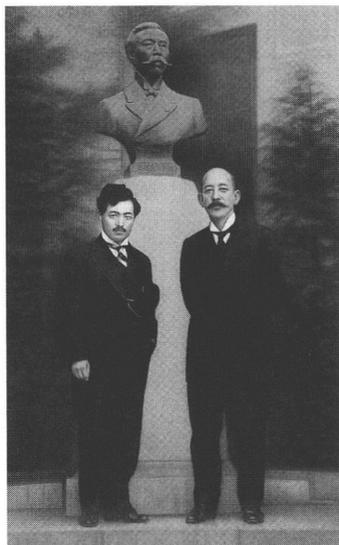
高山は医成会の一員でもあつた。医成会は、一八八一（明治十四）年にのちに東京慈恵会医科大学の創設者となる高木兼寛が松山棟庵と共に設立した医学団体であり、臨床第一の英国医学と患者本位の医療を普及させることを趣旨とした。高山は一八八七（明治二十）年侍医局勤務を仰せつかり、皇后東宮（のちの大正天皇）など皇族の拝察などによって米国歯科医術の導入普及に努めていた。

「医制」実施後に誕生した歯科医師は、一八九〇（明治二十三年）年ですべて百三十名であつた。試験制度になつたことから、廃校時期の不明な予備校的な歯科医学校や講習会は存在していたが学校教育という形態からは遠かつた。それまで歯・口腔の処置は、従来家と呼ばれた口中医や香具師などが担当していた。明治中期はそのような時代であつた。

高山の歯科医学校設立目的は明解である。米国式の歯科医術を体系的本格的に教育することである。そのことは、入学資格を尋常中学校卒とし、しかも修学年限を四年の長きに決め、そしてカリキュラムの教授内容が示している。米国の歯科医学校でさえ三年制であり、わが国の公立医学校は応募者

### 血脇と野口：紀齋像の前で

東京歯科医学専門学校卒業式の日創立者  
高山紀齋の胸像前で建学者血脇守之助(右)  
と野口英世博士(左)。1915(大正4)年10月



が定員に満たない時代である。さらに尋常中学校卒は官吏へのエリートコースでもあり、その出発点に立った若者が香具師と賤業の印象がなお強く残っている社会にあつて、高山の志は受け入れられるべくもなかった。開学時定員二百名に対し新入生は九名という現実であつた。高山は、間もなく医術開業試験の予備校的なカリキュラムにして随時入学としたところ、八十五名が入学した。

そのような状況の中でも高山の理想は失われることなく、学院の財政困窮の中で教育を継続していった。

明治中期に至つても、歯科に関する教科書・参考書の類はほとんどなかった。高山は、米国の歯科医学書を原典として、講義録を開学以来毎月一冊ずつ二年間で計二十四冊出版した。歯科医学の専門用語が確立していないため独自に開発しなければならなかったこともあり、その出版には多大な苦勞を伴

つたと思われる。この事業は学院生への教育効果を高めただけでなく、講義録を通じて学院の知識が広く多数の人々に解放され伝達したことから、わが国の歯科医術の向上に多大な貢献をした。

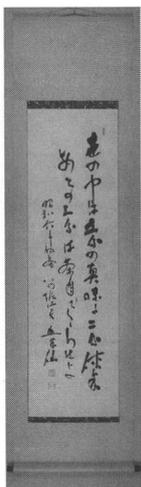
### 五 東京歯科医学専門学校への昇格

高山紀齋は一九〇〇(明治三十三年)年に歯科医学院を血脇守之助に委譲する。血脇はこのとき二十七歳である。血脇は、のちに歯科以外の人たちにも野口英世の伝記でその名を知られるようになるが、仁義に厚く指導力を備えた人間性豊かな千葉・我孫子出身の人物である。血脇が野口英世の渡清(一八九九「明治三十二年」)にあたって贈った言葉が血脇の生き方を知らせている(写真)。血脇は慶應義塾別科を修了し、新潟での英語教員時代を少し送ったのち上京、一八九三(明治二十六年)年、二十三歳で高山歯科医学院に入学する。二年後に卒業し歯科医術開業試験に合格する。受験生百五名、合格者十六名という厳しい時代であつた。

血脇は、委譲された高山歯科医学院を東京歯科医学院と名

### 掛け軸：世の中は……

1899(明治32)年、野口英世が清国牛莊に行くにあたって血脇守之助が贈った処世訓を、後年同窓の依頼によって揮毫した。



わが大学史の一場面

称を変え、一九〇一（明治三十四）年に神田三崎町に学院を構える。歯科医学院の財政は、当初から血脇の肩にかかっていた最大の課題であった。さらに専門学校制度が公布され、一九〇六（明治三十九）年には歯科医師法制定に伴って発令された公立私立歯科医学校指定規則によつた文部大臣の指定校認可を得ることなど、入学者の資格、教員の資格、そして施設設備の三要件で越えなければならぬ高いハードルが並べられていた。

東京歯科医学院は一九〇七（明治四十）年に専門学校昇格、一九一〇（明治四十三）年に文部大臣指定を認可された。いづれもわが国最初の学校であった。血脇は高山が見込んだように優れた経営能力をもっていた。血脇は学院の在校生を増やしたが、特に専門学校昇格と文部大臣指定学校になつたことは重要で、それまでの数十名だった卒業生が百数十名と一挙に拡大していることから示されている。専門学校と指定校になれば、徴兵と国家試験の免除という大きな特典を各々得る。学生数の著増は、高山も血脇も求めてやまなかつた歯科医学教育、さらには歯科医療の社会的な認知の第一歩として位置づけられるからである。

血脇は先見性をもつて歯科医学院の質の充実に向かつていった。終戦直後、東京歯科医学専門学校は最初の旧制歯科大学となるが、その初代学長となる奥村鶴吉をペンシルバニア大学歯学部留学生として修学させたが、これには大学卒業の資格取得と米国歯学部教育の実験の体験という目的があつた

とされている。奥村の留学先からの報告によつて、東京歯科医学院の入学資格、修学年限や履修科目を米国式に近づけていたことが、専門学校指定規則や歯科医学校指定規則の厳しい基準を超えられる主な要因となつたからである。

## 六 無念の大学令

私立学校にとつて大学昇格は最後の目標であつた。その機会が訪れたのは、一九一八（大正七）年に発令された大学令によつてであつた。後年大学になる私立学校は多くが明治十年代に創立されている。これらがついに名実共に大学として政府から認定されるまで、約四十年間の道のりであつたが、「専門学校」制度は、私立専門学校の整備と発展に欠かせなく、のちの「私立大学」登場の「揺籃」であり、必要な「助走期間」であつたとされている（天野郁夫）。そして、戦前期における近代学校制度は、この大学令をもつて完成された。しかし、この重大な法令において、歯学（歯科医学）は除外されていた。「国家ニ須要ナル學術ノ理論及応用を教授シ、並其ノ蘊奥ヲ攻究スルヲ以て目的ト」するとの大学令第一条によれば、歯科医師養成機関では研究は必要ないということであつた。すべての歯科医学専門学校は最後の目標を失つたわけである。設立されていた歯科医学専門学校の落胆は大きく、東京歯科医学専門学校では一九一九（大正八）年に学生が主体となつて歯科大学創設期成会が設立され、その演説会では政府への抗議が相次いだ。

機会はいつか来ると考えた血脇は、大学昇格の夢をあきらめなかった。一九二〇（大正九）年には財団法人の認可を受け、神田三崎町の校地ほか自身の資産を財団に寄付した。財団監事にはのちに東京慈恵会医科大学学長となった金杉英五郎、のちの大蔵大臣となった三井銀行の池田成彬が就任している。両監事は古くからの血脇の友人である。そして、専門学校ゆえに手薄になりがちな研究に血脇は力を注いで、人材育成にあたっていった。当時の重厚な教員布陣とその研究業績からそれは明らかである。例えば、一九二二（大正十一）年には歯牙の病理組織研究で花沢鼎が慶應義塾大学医学部に学位論文を提出し医学博士を取得した。これが歯科医師として医学博士第一号であり、同医学部においても第十七号であった。また、翌年には奥村鶴吉が東京慈恵会医科大学から歯科医師として第二号になる医学博士号を授与されている。

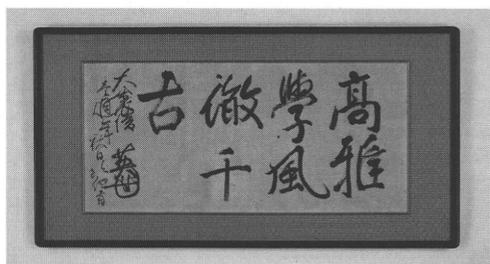
一九四六（昭和二十一年）、東京歯科医学専門学校はわが国初めての歯科大学（旧制）となり、関係者一同喜びが爆発するのであるが、それは皮肉にも敗戦を迎えたからであった。その後は大学院設置（一九五八「昭和三十三年」）などを経て、単科歯科大学として小さな学校法人であるが、今日の競争と連携、そして国際性をキーワードに文部科学行政において他の大学・学部と同じ土俵で質の向上に努めている。

## 七 東京歯科大学の伝統

東京歯科大学の歴史は、「新しいことを始めた。そして継

### 額：高雅学風

関東大震災による校舎全壊に対して、ニューヨークの野口英世が失念の血脇守之助に再建を祈って贈った偏額。1924（大正13）年



真。そして高山紀齋と血脇守之助の行動は最初から国際的であり、二人は紛れもなく、日本の近代化に貢献したフロンランナーであった。

## 八 現在の歯学部課題

今日歯科医学は生命科学の一分野として確立し、世界の競争の中で先導的な研究分野も多い。口腔機能と全身との関係が基礎研究や疫学研究からエビデンスが多々産出され、嘔むことと健康な口腔が全身の健康に大きな関与があることが証

続発展させてきた」ということに尽きる。明治政府は富国強兵と官尊民卑の政策を先行させ、歯科は官の支援はなく自らがつくりあげていかなければならない業種であった。このため高山血脇には開拓者精神、反骨精神と、香具師からの決別のためジェントルマンへの志向が根強く存在していた。「歯科医師である前に人間であれ」が血脇の言葉である。野口英世はその学風を「高雅」と表現している（写

明されている。このことから歯科医療は超高齢社会において人々のQOLにますます重要になるとの認識は一般的である。歯学部を取り巻いている課題を二つ挙げたい。根底にあるのは教育である。

#### (一) 歯学教育と医療制度

医学部で教育を受け医師国家試験によって医師が輩出する。一方、歯科医師は記述のとおりで、これを教育制度においても医療制度においても二元制度と言われ、日本の現行制度である。今後の歯科医療は医学的な知識手技がより多く必要とされることから、歯学部を廃止し歯科を医科の一科とし、教育においても医学部で行うのが良いとする一元制の主張がある。これは古くから存在する意見である。前記のような制度変更とは別に「歯科」という言葉は、医療内容が「歯」だけのイメージが社会に強いことから、現在の内容に合わせた「口腔医学」に診療科あるいは学部名を変えたいとする意見もある。ちなみに中国は「口腔医学院」でわが国の「歯学部」に相当する。第二次世界大戦前には一元制度の国が欧州に多く存在していたが、現在は二元制に移行していて、少なくとも先進諸国で一元制の国を私は知らない。国民の医療ニーズに合わせた教育カリキュラムに変更させて行くことで必要な医学的素養には対応ができると私は考えている。ヒトの解剖学的な部位だけで医師か歯科医師かと担当範囲を決められない診断治療も存在する。血液、神経、免疫などは全身を巡っていることから理解が可能かと思われる。医療と歯科医療の重なる部

位での医療に対する法解釈は、時代によって変わるべきであり、その妥当性が研究と教育とに基づくことは、これまでの歴史で示されていることである。例えば静脈注射を行うことさえ、昭和初期には歯科医師が医師法違反で裁判になったほどである。

本学は戦後「歯科大学」になった一九四六（昭和二十一年）に付属の「市川病院」を開設し、現在では五百七十床二十科の総合病院に成長している。地域中核病院としての役割とともに、歯学部学生に対する医学教育の場としても機能している。また、同病院内に設置した「口腔がんセンター」は大学院研究科における文部科学省プロジェクト「がんプロフェッショナル養成プラン」で医師歯科医師の指導で歯科医師の口腔がん専門医育成の現場でもある。米国の二元制を是とした高山紀齋は、歯科は医学の一分野であると述べ、その認識を継続させた血脇、奥村によって歯科医学として教育、研究そして臨床がなされてきたが、「市川病院」はそのための手段の一つであったと伝えられている。患者はどちらの制度によって良い医療が受けられるのか、そして現行での患者の不利益にはどのような改善策があるのか、医療の進展とともにつねに考えられるべき課題である。

#### (二) 募集定員削減と臨床教育

両者は関連しないようだが、歯科医師国家試験という要因で強く結合する。歯学部学生数は国公立が三〇%、私立が二〇%とこれまでの最大数から削減してきた、さらに一〇%の

削減実行が私立に期待されたところであった。ところが二〇〇九（平成二十二年）年度から多くの私立歯科大学・歯学部は募集定員不足が生じ、二〇一〇（平成二十三年）年度は私立の募集定員総数の約二〇％減の入学者という事態になった。この現状から各校の削減への足並みはそろわなかった。

学納金の減額が、応募者減少の歯止めのカンフル剤として、多数の大学が行いだしている。本学はメインキャンパスの千葉から千代田区三崎町への移転事業の最中で、定員削減も学納金減額も財務状況からできない苦境にある。しかし、大学の使命として質の維持に対する教職員の意識は旺盛であり、これを突破口の柱にしたいと考えている。一方、行政は可能な方法で教育の質の担保に留意している。厚生労働省は国家試験を難度化させ、文部科学省は直接指導やウェブサイトの歯学部情報で全校の教育評価表を公表している。

歯科医師国家試験合格率は平均七〇％（二〇一〇）〔平成二十三年〕年度で、医師国家試験の九〇％に比べると著しく低い。このため歯学部志望者は、学納金が低額であることと国試合格率の高い歯学部が志望動機となる。したがって、各校は国試合格率の上昇を目指すことに当然なるのだが、在学中の臨床実習が学生教育の最後の仕上げとして重要な期間となっている。習得した知識を統合して診断治療に適用する訓練、初歩の医療技術習得、さらには直接患者さんに相接することが指導者のもとで行われることから、学生時代の臨床実習の質

が将来を決めると言っても過言ではない。臨床実習では、記憶吐き出し型が主体の現行の国試形態では評価しきれない多くの事柄を現場（臨床）で学ぶのである。知識の伝達とともに工夫創造が訓練される時期である。国家試験対策への偏重は、勢い臨床実習を形骸化させる。それは明治初期への先祖返りとも言える愚行である。幾多の変遷のちに今日の教育の理念と方法に至った歴史を羅針盤として、国家試験のあり方を検討する必要があると感じている。

## 九 おわりに

少子高齢化、そして二十年にわたる低経済成長という現在、私立大学歯学部は、将来のことと想っていた募集定員不足が早々と現実化した事態を迎えている。しかし、研究は専門学校に必要なしとされた明治から昭和中期までを振り返れば、そのような規制が外れた現行制度において今後の明暗は自校の舵取りしだい、つまり学校法人自身の運営能力が未来を拓くと考えている。

### ●参考文献

- ・ 野野郁夫『大学の誕生（下）』143ページ、中央公論新社、二〇〇九年
- ・ 『東京歯科大学100年史』発行者・鹿島俊雄、一九九〇年
- ・ 『近代歯科医学教育を拓く』東京歯科大学創立120周年記念誌、発行者・金子讓、二〇一一年
- ・ 今田見信『小幡英之助先生』小幡先生傳記刊行會、一九四〇年

## 気がつけば人気者の ジョガクインコちゃん

榎良平 ● 広島女学院大学 大学事務局入試課長

広島女学院大学は、学校法人広島女学院が運営する大学だ。大学のほかに広島女学院中学高等学校、広島女学院ゲーンズ幼稚園をもち、広島に根づいた学園である。

広島女学院の創立は一八八六年十月一日である。当時、世



ジョガクインコ

の中は男性を中心とする明治の時代であり、女性への教育は軽視されていた。そのころから広島女学院は、キリスト教主義に基づく女子教育を建学の精神とし、しっかりとした倫理観とブレない信念をもつ女性を育んできた。広島女学院大学は、広島市の中心地である牛田山に位置し、広島

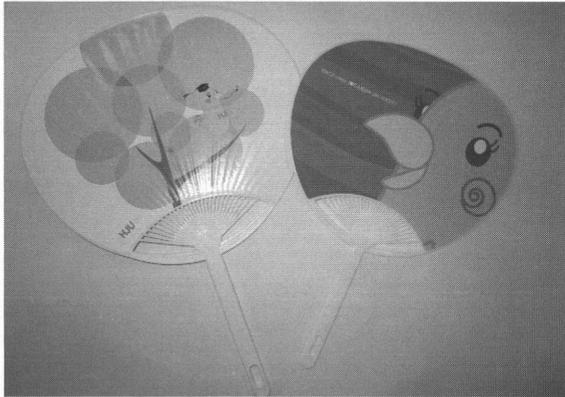
駅にほど近い立地に恵まれた場所にある。自然豊かなキャンパスでは、約千九百名の学生が学んでいる。二〇一二年四月に全学改組を実施し、国際教養学部―国際教養学科、人間生活学部―生活デザイン・建築学科、管理栄養学科、幼児教育心理学科の二学部四学科体制となった。ここでは専門教育とともに全人的教育を目指している。

### ●ジョガクインコの誕生

「女学院の子」で「ジョガクインコ」、私が考えたダジャレである。〇〇女学院という学校は全国に多くあるが、広島で「女学院」と言えば広島女学院のことで、地域の方に親しまれてきた。その愛称を用いて考えたダジャレであった。

ジョガクインコがキャラクターとして誕生したのは、二〇〇四年に私が入試課に配属になったときだ。「ジョガクインコ」をキャラクターにして広報物に登場させることで、より多くの人に親近感をもってもらいたいと思い、芸術家として創作活動を行っている卒業生の一人に相談をした。彼女は快くデザインを引き受けてくれた。私は、「ジョガクインコ」なのでかわいい鳥のインコにしてほしいと伝えた。いろいろ調べていくうちに、インコには三百以上の種類が存在し、羽の色も姿もさまざまであることがわかった。色とりどりでおしゃれな鳥たちは、個性的な広島女学院大学の学生のイメージにぴったりだった。学生たちがこの大学で学び、集い、いつか自分の羽で大空高く羽ばたいてほしいという願い

2006年6月25日に配布したうちわ。ジョガクインコのデビュー！



も込めた。

卒業生がもってきた線画のジョガクインコを見たとき、こんなにかわいらしいキャラクターが誕生したことに感動したのを今でも強く覚えていいる。胸につけた「HJU」のロゴは、校花であるあやめの花の色をイメージしている。尻尾は「HJU」をモチーフにし、頭には卒業式の角帽をかぶせ、体の色は親しみやすいピンクである。制作者は「広島女学院大学と一緒に通う、もしくは広島女学院大学に住んでいるインコという親しみやすいものにした」という思いでデザインした

た」と当時を振り返り語ってくれた。労力を惜しまずに協力してくれた卒業生に感謝している。

ジョガクインコがデビューしたのは、二〇〇六年六月二十五日に行われた本学のオープンキャンパスである。配布する「うちわ」のイラストに使われた。そのため、この日をジョガクインコの誕生日としている。

### ●ジョガクインコの活動

デビュー以来六年、広報物やノベルティなど、さまざまな場面に登場した。二〇一一年には、体長百五十センチの大きなフィギュアを制作した。本学の美術担当教授の発案で学長が賛同し実現したものだ。フィギュアは、キャンパス内で多くの人が目にする場所に設置されている。ジョガクインコと記念撮影をしている学生や高校生、海外からのゲストの姿も見られる。

今では、学生が作る制作物にジョガクインコが描かれることもあり、愛着をもち、受け入れてもらっていることを感じる。私は、それまで自分の「ダジャレ」から始まったことを気にしていたが、学内でも賛同を得られ、学生や高校生など多くの方にかわいがられるジョガクインコを見て、その不安から解放された。先日、入試の日に受験生がジョガクインコに向かって祈る姿を見かけ、ほほえましく思った。ジョガクインコが広島女学院大学のキャラクターとして成長し、多くの方に愛されている姿を見てうれしく感じている。

### ●これからのジョガクインコに望むこと

広島女学院大学の「ジョガクインコ」をマスコットキャラクターに編み取り上げていただいたことを機に、一人でも多くの方に知っていただきたいと思う。そして、これから広島女学院に刻まれる歴史とともに、ジョガクインコも受け継がれていくよう願っている。学生にとって、高校生のときに初めて目にし、在学中も親しみ、卒業後も楽しかった記憶とともに思い出してもらおう、そんなキャラクターであってほしい。

加盟校の幸福度ランキングアップ——●

こくぴょんと

もつと日本を もつと世界へ

白川 博一 ●國學院大学総務部長

「こくぴょん」、その愛らしさから、在学生はもちろん、保護者や卒業生、受験生からも人気を集める國學院大学のマスコットキャラクター。しかしこのキャラクターが誕生したのは、今から五年前と比較的新しい。本学では、平成十四年から渋谷キャンパスの再開発事業に着手、平成二十一年九月



には三号館が完成し  
同事業は終了した。  
気持ちも新たに新渋谷キャンパスが始動した本学では、これを一つの契機として戦略的なブランドイメージの確立を目指し、その象徴としてマスコットキャラク

ターを制作することとなった。

●在学生がつくるマスコット

平成二十一年六月、在学生からキャラクターとなる絵コンテを募集。募集に際して①大学のアイデンティティが盛り込まれているなどメッセージ性があること、②誰からも愛されるデザインであること、といった条件が附加された。提出された絵コンテを選考委員会が書類選考し四案まで絞り込んだ。二次選考は在学生による人気投票となり、絵コンテをもとに制作されたデザイン案を大学ポータルサイト「K-SMAPY」上で公開。一一五人の在学生から回答があり、「こくぴょん」が四九〇票を獲得、本学のマスコットキャラクターとなった。

●大学のアイデンティティが勝敗を決めた

「こくぴょん」は、日本神話である古事記に登場する「因幡の白兔」がモチーフとなっている。そして榊の葉の耳飾り、首には勾玉のペンダントと、國學院大学が建学以来研究を続ける日本文学、神道学、歴史学に関連性をもたせ、本学のアイデンティティを内外に示す意図が込められていることが最大の特長だ。このことから、本学の特長が盛り込まれている「こくぴょん」に対して多くの者が愛着をもち、他の候補よりも多くの票を獲得したと推測できる。

●新たな都市伝説も誕生

同マスコットは入学式や卒業式、オープンキャンパスや学



園祭など、大学の節目となるイベントには必ず登場し人気を集めている。さらに、「単なる人気者」としてだけでなく、「こくびょんと握手すると良いことがある」といったジンクスも在学生の中ではささやかれるようになり、こくびょんが登場するたびに、その「ご利益」にあやかるうと、多くの在学生が握手を求め、会場はさながら「握手会」の様相を呈している。さらにこのうわさは在学生から受験生にまで広がり、オープンキャンパスでも同様の光景を見ることができ、なぜこのようなうわさが短期間のうちに広がったのかは不明であるが、在学生の意識の中には「自分の大学のマスコットを自分たちの手でつくりあげた」といった思いが強く、そのような気持ちの表れとして良いうわさが広まったのではないかと推測できる。

●周年事業では  
全国に  
昨年、創立百三

十周年を迎えた本学ではさまざまな事業が展開された。中でも「こくびょん」関連の企画は多く、全国五都市でこくびょんラッピングバスを運行、創立百三十周年オフィシャルサイトコンテンツとして「こくびょんアニメーションショートムービー」と「こくびょんと巡る古事記スポット」の二企画を展開した。特に「こくびょんと巡る古事記スポット」は、本学文学部で古事記の研究を専門とする教員が監修、全国にあるゆかりの地をこくびょんが紹介するといったもので、昨年が古事記撰録一三〇〇年目ということもあり、同サイトの中でも人気コンテンツとなった。この企画では、次年度以降も引き続き日本全国の「古事記スポット」を紹介していく予定だ。またこれ以外にも、本法人系列幼稚園のイベントへの参加、ぬいぐるみやバッグほかの関連グッズ販売など、現在では活躍の場を広げており、本法人の象徴として存在感は増す一方だ。

●もつと日本をもつと世界へ  
「もつと日本をもつと世界へ」、創立百三十周年を機に昨年三月から本学が新たに掲げたスローガンである。日本の伝統文化を世界に発信し続けること、それは本学が建学以来取り組んできた最も重要なミッションである。「皆に愛されるマスコットキャラクター」として誕生した「こくびょん」。今後は「伝統文化を次世代へ伝える親善大使」としての役割を果たしてもらいたい。キャンパスから全国へ、さらに世界へ。國學院大学関係者の「こくびょん」に対する期待は大きい。

●加盟校の幸福度ランキングアップ――

## 愛くるしさが大人気

## 体育会のキャラクターをデフォルメ

### 専修大学総合企画広報室広報課

●マスコットキャラクター導入の経緯

専修大学のマスコット「センディ」は、本学の創立百二十年（二〇〇四年）を記念して制作された。

大学の強いオリジナリテイの確立と、それに伴う積極的なPRを推進することを目的に、二十一世紀ビジョン「社会知



センディ

性の開発」のイメージに合った「シンボルマーク」と、マスコットの「ペットマーク」を二〇〇三年十月から在学生、教職員、卒業生、ご父母・保護者を対象に募集。

各学部教員代表、職員代表、学生代表、校友会（卒業生が組織する会）・育友会（在学生のご父母・保護者が組織する会）代表など計二十人の選考委員により、応募作品百十八件の精査がなされた。二回の選考委員会で大賞（採用作品）に該当するものではなく、優秀作品各二点を表彰。その後、事務局（広報課）が中心となり、すでに体育会のキャラクターとして使用されているデザインをもとに、より多くの人に愛されるようさらにかわいらしくデフォルメしたデザイン案を選考委員会に提示。満場一致で決定された。獅子の顔と鳳の羽を配したこのデザインは、若者たちに、無限の可能性をもつ未来へ力強く羽ばたいてほしいという思いが込められている。

センディのデザイン決定後は、事務局で意匠のバリエーションの検討、利用マニュアルの整備を進めた。専修大学V Iマニュアルとして、シンボルマークと併せて学内のコンセンサスを得て制定されたのは二〇〇五年九月のことである。しかしながら、この時点では名称がついておらず、認知度もあまり高くなかった。

そこで、二〇〇六年四月に在学生、教職員、卒業生、ご父母・保護者、高校生を対象に名称の募集を行い、約百二十の応募の中から、本学教員と育友会員が考えた、「センディ」が選考された。「専大」をイメージしやすい語感と親しみやすさが高い評価を得た結果である。その後、二〇〇七年三月に、名称募集の際に使用した「ペットマーク」という呼称を

## イベントで活躍するセンディの着ぐるみ



改め、「専修大学マスコット センディ」が登場した。

### ●マスコットキャラクターの活動

グッズの制作も同時進行で進められ、二次元のイメージグッズとしてはステッカー、携帯ストラップ、マウスパッド、七宝焼きのバッチなどで展開された。3D化したストラップも販売したが、樹脂製で突起の多い形状のため破損が多く、サイズを小さくして販売することとなった。今では幻のアイテムだ。

二〇〇七年十一月にはセンディの巨大ぬいぐるみを制作し、生田キャンパスの百二十年記念館メインエントランスに常時設置した。このぬいぐるみは高さ百五十センチ、幅百三十センチと成人の身の丈ほどもあるもので、学生や来客にその存在をアピールしており、写真撮影のスポットとなっている。

二〇〇八年九月に

は、立ち姿などバリエーションの追加を行った。これは、センディのイメージが利用者によって、さまざまなために、イメージの統一を図りつつ利用場面の拡大を狙ったものだ。併せて同年十月にはセンディの着ぐるみも制作した。この着ぐるみは、オープンキャンパスやホームカミングデイなどのイベント、正月の箱根駅伝などスポーツ応援の際に活用されている。二〇一二年六月には、本学公式ウェブサイトを全面リニューアルに伴って、FAQ検索システムをサイト上に装備したが、このシステムの名称を「センディナビ」とし、サイトの案内を受け持つコンシェルジュ的な役割として、どのページでもデザインを配置し、印象の深化に努めている。

### ●マスコットキャラクターの今後

現状の課題点としては、不適切な使用に注意を払いながらも、まづグッズの種類を増やすなど、よりさまざまな場面に目につけることができるようにすることである。

そして、露出機会の増加による認知度の向上だけで終わらせないために、よりストーリー性をもたせた展開を検討し、センディへの親しみやすさを本学への親しみに転化させるような施策が必要と考えている。

さらに、大学に期待されている地域貢献の場において、本学のイメージをソフトに伝える「大使」としての役割を担うことも重要である。将来的には、センディが本学のマスコットとして、誰からも好ましい印象をもって見られるよう、広報活動を展開していく。